

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果分析と改善の取組について

1 教科（国語科・算数科）に関する調査より

〔全般的傾向〕

今年度の氷丘小学校の平均正答率は、国語科・算数科は全国平均をやや上回り、兵庫県平均よりやや上回っています。2教科とも、基礎・基本の定着はある程度ありますが、活用する段階でつまづいている傾向がみられたり、選択解答に比べ記述解答を苦手に行っていたりする傾向がみられました。

〔学習指導の改善・充実〕

【国語科】

- ①文章や図表、グラフなど資料を正しく読み取る力をつけるため、本文がその資料とつながりがあるのかを意識しながら授業を進めていく。
- ②目的や意図に応じて複数の情報からわかることを読み解き、要約する力をつけるため、文章の構成を十分理解させ、キーワード等落とさず、どこが重要か考える時間を十分確保する。
- ③自分の考えを明確にもちある程度の字数で書きまとめるため、話し合い活動を多く取り入れ、賛成・中立・反対等自分の意見を学年に応じて決められた字数で考えを書く活動を多く取り入れる。
- ④漢字や敬語など語彙の基礎・基本を定着させるため、日常会話から見直させ、漢字などは引き続き、反復することで定着させる。また、ドリルパークなどのクロームブックの適切な活用を心がける。

【算数科】

- ①適用する数の範囲を広げていきながら統合的・発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見い出し、表現できるようにする。
- ②伴って変わる2つの数量の関係に着目し、未知の数量を求める力をつけるため、4年生で学習する伴って変わる2つの数量の学習をていねいに行い、学年が上がっても4年生で習ったことを復習しながら学習を進めていくようにしていく。
- ③作図などを通して、図形を構成する要素に着目して、図形の性質を正しく理解するために、既習の知識から面積をどのように求めるかを考える時間を十分に確保したり、図やICTを活用して、各図形の特徴や定義をおさえたりする学習を取り入れる。また、面積や体積を求める公式についても公式の成り立ちをしっかりとおさえる授業を行う。
- ④計算の技能面だけでなく、なぜそのように解いていくことができるのかという意味を理解させるため、どの単元でも、主体的・対話的で深い学びを意識し、授業改善を行う。

- ⑤昨年度に引き続き、普段の生活体験を生かしながら基準量、比較量、割合の関係について理解するため、日常生活で使われている割合を数多く授業で取り扱い、割合のイメージをつかませる。(めんつゆの原液と水の量の割合 たこやきの粉の質量と水の質量の割合など)
- ⑥普段から、考えの道筋を立てて説明したり、言葉や式、図表などを使って書きまとめたりできるようにするため、問題を解くときに、「まず、次に、そして」をつかって説明したり、絵、式、図などを使い、自分なりの考えを表現させたりして、話し合い活動を取り入れながら自分の考えを説明する場面を更に設けるようにする。

本校の学習「研究体制について」

課題に対する具体的な取組を「四部会」「研究推進委員会」「学年会」で検討する。特に「書く力」を伸ばすための具体的な方策を考える。研究授業等で考えた方策を実践したのち、教職員で更なる授業改善の検討会を全学年行う。また、ICT活用場面の整理と蓄積を行う。検討したことを生かすため、個別最適な学びと協働的な学びを理解、実践し、主体的・対話的で深い学びへの授業改善に日々取り組んでいく。

2 質問紙調査より

【生活習慣に関して】

- 90%強生活習慣は良好という結果となっている。

【教科に対する興味関心】

- 「国語/算数の勉強が好き」だと回答した児童の割合が国語・英語では9割で算数は7割だった。それらが大切で将来役に立つと考えている児童の割合が9割を超え、全国平均よりかなり高い。

肯定的な回答をした児童の方が平均正答率が高い傾向あり。

『好き』⇔『自ら学びに向かう』の好循環→どちらがきっかけになってもよい。
学校では、児童が興味・関心をもつような授業の工夫をしていく。

【主体的・対話的で深い学びに関して】

- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うか」の質問に対し肯定的な回答は8割。

学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。肯定的な回答が8割以上と高い。

△『どちらかといえば・・・』の中間層と否定的な回答2割の児童への指導

△総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導

総合的な学習の時間の学習課題の検討や課題に向けての取り組み方の改善が必要

【ICTの活用に関して】

- 授業でのICT活用の程度が「週1回以上」が8割、「週3回以上」が3.5割。

どの教科でも適切なクロームブックの使用が求められている。兵庫県の平均で週3回以上が5.5割、全国平均が6割である。県・全国平均を大きく下回っている。GIGAス

クール構想2年目ということもあり、今後職員研修などで学び、更なる適切な使用に努めていく。

授業時数に限りがあるため活用が難しい現状があるのも事実、調整と工夫が課題である。

【自己肯定感に関して】

○「自分にはよいところがある」と肯定的な回答をした児童の割合が9割強。

日々の生活や学校生活の中で、自己肯定感を育んでいく重要性⇒教師や友だちとの対話 家庭との連携・協力が必要である。

【幸福感に関して】

○「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはある」と肯定的な回答をした児童の割合が9割強。

ご家庭や地域の協力があっての結果だと感じる。今後も家庭と地域と学校が協力して、子どもたちの幸福感の増幅をはかっていく。

肯定的な回答をした児童ほど、授業で学んだことをほかの学習に生かそうとする。また、国語、算数等の学習においても、主体的な姿勢がみられる傾向がある。

学力の重要な3つの要素は、基礎的・基本的な知識・技能と、その知識・技能を活用し自ら考え判断し表現する力、そして学習に取り組む意欲である。

加古川市では、この基礎的・基本的な知識・技能を「できる学力」、知識・技能を活用し自ら考え判断し表現する力を「わかる学力」と捉え、この「できる学力」「わかる学力」をバランスよく伸ばしていくことにより確かな学力の育成を図ろうとしている。

本校においても、本年度の全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえて更に授業改善を行い、学力の向上に努めていく。